

会議録

会議の名称	令和6年度 第3回浅口市まち・ひと・しごと創生総合戦略審議会
開催日時	令和7年2月19日（水） 10時30分～正午
開催場所	浅口市健康福祉センター2階研修室
出席者氏名（敬称略）	中村 良平、伊澤 誠、高戸 崇、杉野 美代子、三宅 秀次郎、中村 昭、 原田 英和、福島 啓祐、筒井 由紀子、大岸 貴美子、栗田 美穂、 金島 裕之
欠席者氏名（敬称略）	原田 一成、山下 隆志、柏原 淳、新木 義則
会議次第	1 開会 2 議事 （1）「第3期浅口市創生総合戦略」策定にあたって （2）その他 3 閉会
配付資料の名称	1 審議会次第 2 審議会委員名簿 3 審議会条例 4 第3期浅口市創生総合戦略（素案）へのパブリックコメントの実施結果について 5 資料1 「第3期浅口市創生総合戦略」素案
その他	報道関係者：株式会社山陽新聞社、笠岡放送株式会社 傍聴者：なし

審議内容	
1 開会	
事務局	皆さまにおかれましては、ご多用の折、ご出席をいただきありがとうございます。 定刻となりましたので、ただ今から「令和6年度 第3回浅口市まち・ひと・しごと創生総合戦略審議会」を開会させていただきます。本日の会議につきましては、お手元の次第に沿って進行させていただきます。 本会議は原則として公開とし、委員・事務局以外の方についても氏名・住所・所属等を明らかにした上で、入室・傍聴を可能としておりますので、よろしくお願いいたします。 それでは、開会にあたりまして、中村会長からご挨拶をいただきたいと思います。
中村会長	皆さん、おはようございます。日本中、いろんなところで大雪のニュースでいっぱいです。今朝も新幹線が30分ぐらい遅れているところもあります。ほとんどの地域が積雪等で困っている中、岡山の瀬戸内側はものすごく晴れており、良い地域に住んでいるなとつくづく感じます。若い人たちが東京の方へ出て行ってしまいう現状ではありますが、雪のような気候等、住みやすさを考えたときにどうして戻って来ないのかと考える部分もあります。 本日は総合戦略審議会、3回目となる最終回です。事務局においてパブリックコメントを実施され、どのように対応していくのか説明してくださると思います。それも含めまして、皆様からのご意見を賜りたいと思っておりますのでどうぞよろしくお願い致します。
2 議事	
事務局	ありがとうございました。 それでは、これから議事に入らせていただきますが、これからの審議内容につきましては、正確を期するために記録をとってまいりたいと考えております。 つきましては、ご質問及びご意見を出される時には、挙手の上、会長から指名された後に、お名前を言っていただいたうえで、ご発言をいただきますようお願いいたします。 なお、本日は、審議会委員16名中12名ご出席でございますので、審議会条例第6条第2項に規定する半数以上の出席があることから、審議会が成立していることをご報告申し上げます。 それでは、これからの進行につきましては、審議会条例第5条第3項に「会長は、会務を総理し、審議会を代表する。」と規定されておりますので、中村会長よろしくお願い致します。
中村会長	審議会条例によりまして、会長が会務を総理するということになっておりますので、相務めてまいりたいと思います。なお、終了予定時刻を正午までの予定としておりますので、格段のご協力をいただきますようお願いいたします。 それでは、審議事項に入ります。

事務局	「第3期浅口市創生総合戦略」策定にあたって、事務局より説明をお願いします。 それでは事務局より、説明させていただきます。 まず、初めにパブリックコメントの実施結果について報告いたします。 本日、お配りをさせていただいております、ホッチキス止めの「第3期浅口市創生総合戦略(素案)へのパブリックコメントの実施結果について」をご覧ください。 第3期浅口市創生総合戦略の素案につきまして、年末から1月13日までの約2週間にかけて、市内在住・在勤及び在学の人もしくは市内に事業所を持つ法人・その他の団体の方々を対象としてパブリックコメントを募集しました。 その結果、1件のご意見が寄せられましたので、提出いただいた意見の概要とその意見に対する市としての考えを報告させていただきます。 提出いただいた意見について、「第3期浅口市創生総合戦略(素案)についてのご意見と市の考え方」と事前に郵送させていただいた素案をあわせてご確認ください。 素案は14ページから示しております、基本目標3「結婚・妊娠・出産の希望をかなえ、子どもをまんやかに子育てする」についてのご意見でございました。 こどもをまんやかに子育てしていくために、「出張児童館」の定期開催や「子育てサロン」の運営・制度設計について、休日保育の受け入れ再開、子どもの一時預かり、放課後児童クラブの運営方針等について、また、インフルエンザワクチンの補助等についてのコメントでございます。 いただいたご意見に対しまして、市の考えでございますが、この度策定する総合戦略の在り方としましては、市の各施策の大枠の方向性を示すものであり、個別具体的な取組・事業等についての記載はしておりません。今回の意見を踏まえて事務局で検討しましたが、素案の修正は行っておりません。 しかし、いただいたご意見は今後の市政運営、個別事業を展開する際の参考とさせていただきますと考えております。 なお、提出いただいたご意見、市の考え方につきましてはホームページにおいて公表させていただく予定です。 次に、第3期浅口市創生総合戦略(素案)について説明いたします。 まず、前回の審議会からの変更点について、ご説明いたします。 変更点は4箇所ございます。 1箇所目は、素案15ページです。 ＜主な取組＞内の事業名について、「浅口ママ・パパ応援給付」という文言を赤字で記載させていただいております。前回までは、「妊婦・子育て家庭への支援給付」と記載しておりましたが、事業の名称変更に伴い、修正をさせていただきました。 2箇所目は、同じく15ページの、④子育て環境の整備と支援の充実、内の文言になります。 「地域子育て支援拠点事業の充実」と赤字で記載させていただいております。前回までは、「子育て支援拠点施設」という文言でしたが、事業の充実を推進し
-----	--

	ていくため、修正をさせていただきました。 3箇所目は、16 ページです。 上段の、◎施策の目標、内の、KPI（重要業績評価指標）、の指標名について「地域子育て支援拠点事業実施箇所」と修正しております。前回までは「地域子育て支援拠点実施箇所」としており、これまでの審議会でも場所を示しているものなのか、事業実施についてを示しているものなのか、どちらのことか分かりにくいとご意見をいただいております。場所ではなく、事業の実施についての目標となるため、「事業」の文言を追加させていただきました。 最後に4箇所目は、18 ページです。 基本目標4の「施策の基本的方向」に、「井笠圏域の3市2町の新たな連携拠点として、ごみ焼却の熱を利用した施設の整備を計画しており、当該施設整備事業を軸に広域の一体的な発展に向けた連携事業を推進します。」と一文追記しております。現在、井笠圏域の3市2町で里庄町に新しくできるごみ処理場で発生する熱を活用した熱利用施設の整備を進めているところです。今後も広域の一体的な発展に向けて推進していくことを基本的方向と定めさせていただきました。 ただいまご説明させていただいた内容・第3期浅口市創生総合戦略の策定につきまして、第1回目の審議会でご意見をいただいた昨年度の評価・検証結果とあわせて答申書として提出させていただきます。 事務局からの説明は、以上です。
中村会長	第3期浅口市創生総合戦略の素案、パブリックコメントの実施結果、答申について説明がありました。 本日は素案の最終確認ということになっております。何かご意見等ございますか。
栗田委員	パブリックコメントに関する内容です。現在策定中の総合戦略の修正には至らないという回答でしたが、子育て世代が勇気を出してパブリックコメントをした大事な意見だと思います。市の考え方としては間違いないのかもしれませんが、このように書かれたら、子育て世帯は突き放された思いになり、今後、声を上げることはできないと思います。意見は今後の参考とさせていただきますとの記載はありますが、今回の意見を地域の民生委員さんとも共有していただくことはもちろんのこと、前向きに検討していくという言葉だけでは済ませてほしくありません。これからどうしていくのか一緒に考えていく姿勢がほしいです。今回のパブリックコメントの趣旨には合わないから聞きませんといった印象を受けます。では、こういった取り組みに関する要望はどこへあげれば良いのでしょうか。子育て世帯はわかりません。どこへ意見をすれば良いのかも教えてください。
中村会長	非常に盛りだくさんのコメントをいただいております。現状がこうであり、今後はどのように検討していると市の考えとして組み込んだ方がいかもしれません。市としての財政上の問題もあるとは思いますが、そこも含めて総合的な戦略を練っていくことが重要かと思います。先ほどのご意見は、市としての具体的な対応、構想を市の考えに反映してもらいたいというご指摘にも感じました。

事務局	貴重なご意見をいただきありがとうございます。 先ほど栗田委員からいただいたご指摘について、市の考え方につきましては、内容を膨らませ、配慮のある表現に変えさせていただいたうえでホームページ等で公表させていただきます。 いただいたご意見につきましては、担当課にも共有し、参考とさせていただきます。 今回パブリックコメントでいただいたご意見は、大変細かくご記載いただいております。主立った意見としましては、最後にご記載いただいております、素案に盛り込んでほしい9つの項目かと思っております。 こちらにつきましては、現状等を踏まえまして事務局より説明をさせていただきます。 まず、1点目です。他市の児童館に依頼して、浅口市内で出張児童館の定期開催をしてはどうかというご意見です。 近隣ですと倉敷市や笠岡市でも出張児童館というものは実施されております。基本的には市内の公民館で開催されており、市外での開催事例は見受けられないかと思えます。当市といたしましては、子どもたちの遊び場や体験の場として市内の全小学校において「放課後子ども教室」を公民館で開催し、「週末子ども体験教室」を行っております。また、図書館やつどいの広場では、保護者と子どもが楽しめるイベントも開催しております。 現状としましては、他市へ出張児童館の依頼をすることも安易ではなく困難であることも踏まえ、現在活動中の既存の取り組みをしっかりと活用していただけるように周知を行っていきたいという考えでございます。 2点目の「子育てサロン」の運営等につきまして、現状、児童館等の設置ができていない点も含めまして、当該制度の実施については検討できておりません。 3点目の受け入れ停止中の休日保育の再開についてですが、保育士不足等により実施が難しいのが現状です。検討の必要性があるという認識ではございますが、実施が難しいのが現状でございます。 4点目の子育て拠点・市内の保育施設においての一時預かりの実施につきましても、保育士不足の点から難しいのが現状でございます。 今後も保育士等の人材確保に努めるとともに、利用対象の拡大について検討を進めてまいりたいと思います。 5点目の休日保育に関する条例・規則の制定につきまして、国の定める要件内で実施をする場合には自治体独自の制定が必要でないという点を鑑みて、制定までには至っておりません。 6点目の市内公園や通学路の維持管理につきまして、様々な要件、部署間の連携等もあることや管理主体もそれぞれ異なるため取りまとめに時間がかかっております。 通学路の関係ですと小学校や中学校のPTAを通じて依頼をかけるようにしております。各地区で危険な箇所については、学校を経由して市へ報告してもらうようにしております。いろいろな方法で情報を把握できるように手段を設けておりますので、今後も充実させていきたいと思っております。 7点目の乳幼児から全ての子どもが集える全天候型屋内施設の新設につきまして、これまでの審議会でもご報告させていただいておりますが、浅口市健康福
-----	--

	社センターの低層棟を改修・移転し、概ね3歳までの子どもから未就学児までに対象を拡大する予定です。小学生以上の子どもに対しては、市内の全小学校において「放課後子ども教室」を、公民館で「週末子ども体験活動教室」を行っておりますのでご活用いただけるよう、周知をしていきたいと思っております。 8点目の長期休業期間中のみでも利用できる放課後児童クラブ枠の新設につきまして、市内の各小学校に設置している放課後児童クラブにおいて、利用できる枠を設けているクラブもありますが、利用希望者増加のため通常利用の枠で定員を超過したことや職員不足等により長期休業期間のみの利用受けれが難しいクラブもあるのが現状です。今後、利用定員や施設の拡大・支援員等の人材確保についても更なる受け皿対策の検討を進めて参りたいと思っております。 9点目のインフルエンザワクチンの全額補助につきましては、現状、子ども医療費の助成対象を満18歳までの子どもに拡大し、子育て世帯の医療費負担の軽減を図っているところであり、全額補助につきましては、現状において検討しておりません。 提出いただいたご意見に対する具体的な市の考えとしましては、以上のような内容になります。できることから前向きな検討をさせていただきます。再度、担当課にも確認・調整のうえ、ホームページにおいて回答を掲載させていただきます。
栗田委員	ありがとうございます。前向きな回答を期待しております。 先ほど赤字の修正点につきまして何点か説明がありましたが、事業の名称が変わるだけで実施内容が変わらないのであれば、今まで通りの状態で子どもが増えるとは考えにくいので、パブリックコメントの内容も含め、前向きに子育て世帯への支援を検討していただきたいです。
事務局	現在記載している事業につきましては、実施中の事業及び今後実施が決まっている事業になります。 策定後、計画期間は5年間となり毎年度PDCAサイクルで見直しをしていくようになります。その中で新たにに取り組むことになった事業や支援策については、随時、計画に盛り込んでいきたいと思っております。 現在記載のない事業等につきましては、予算確保や議会の承認等が必要となってくる点から記載がない旨のご理解をお願いします。
筒井委員	浅口市婦人協議会の筒井です。今回のようないい意見が出てきた際に、募集内容とは趣旨が異なるという理由で検討されないことは非常にもったいないと思います。具体的にどのようにしていくのかを発信していくべきだと思います。 例えば、ゴミの減量が今どのように減っているのか、詐欺に対する注意啓発や商品問題等を市の広報に掲載しているように、広報紙等を上手く活用して子育て関係の情報についても発信をしていくことで子育て世帯の方々にも安心してもらうのではないかと思います。
中村会長	日本には900近い市町村があります。ゴミ問題や少子化問題等、それぞれが同じような課題を抱えております。各市町が課題解決のためにそれぞれのアイデア

福嶋委員	を出して色々な施策に取り組んでいます。 ネットで情報を取得すること、議員の視察、様々なところで情報を得ることができます。アンテナをしっかりと張って、取り寄せることが重要だと思います。その中で、市で実現できるのかできないのかを検討していくことが大切だと思います。 例えばゴミの排出量削減についての社会的な実験として、ある自治体では、ゴミの出し方について市の職員から説明を受けた地域と説明を受けずにゴミを出す地域とではどれくらいの差が出るのかを社会実験されている自治体もあります。説明を受けた自治体の方が減量化出来ていると統計的にもはっきりと結果が出ました。こういった情報にアンテナを張り、情報交換し合い、具体的な案や事例を取り入れていくことも重要かと思います。 また保育士・看護師等の確保について、前回も意見をさせていただきましたが、人材不足については、絶対的不足と相対的不足の両面があると思います。 例えば新規採用は大学や専門学校から輩出されますが、県内の学生さんに来てもらうようにするためには何が必要なのか、市で働くメリットは何があるのか、保育士として勤務してもらう際に何を望まれているのかを考える必要があります。一番大きなメリットとして挙げれるのは住宅ではないかと思います。住宅補助、家賃補助を受けることができると非常に効果があるのではないかと思います。例えば家賃が6万円、7万円のところに3万円の補助が受けられるとなると、実質3万円、4万円で住むことができ、大きな補助になります。 先程、委員が申し上げられたように、具体的な戦略を構築しトライして行くことが大切ではないかと思います。 ふるさと納税の使い道についても、家賃補助に充てることも効果的ではないかと思います。 さらに、保育士確保のために、一度現場を辞められたベテランの方々に依頼することも一つの手段だと思います。自身の子育てが終わり、時間が作れるようになった保育士の方々もおられるのではないかと思います。ベテランの保育士さんをお願いすることで、若手職員、若手の保育士さんにも教育効果があると思います。 色々なアイデアを出して、具体的に戦略を立てて実際にやっていくことは非常に重要です。具体的なことは総合戦略の中には記載することはできませんが、毎年、効果・検証していく中でアイデアを出して実際にやっていくことは必要だと思います。 浅口医師会の福嶋です。いま議論している内容は、市が発展していくために1番肝になってくる部分だと思います。「こどもまんなか社会」と国も掲げていますが、その子どもたちをみる保育士が全国的に足りていません。 先ほど中村会長より住宅補助のお話がありましたが、我が施設でも高齢者を看る介護士や病児保育を看る職員、家から通えない職員や遠方から勤務している職員に対して寮を用意するなど住宅補助をしていました。 昨日、市職員とお話しする機会があり、保育士さんや保健師さんの募集をしてもなかなか集まらないののことを聞きました。どうして集まらないのかを考えたときに、その人たちの生活の質を上げることにに対する努力をされていないのでは
-------------	--

ないかと思いました。

5パーセントくらい給料が上がっていつている中で、福祉業界では2パーセント上がるかどうかというところで、上げていくことも必死の状況です。公定価格になりますので、我々が自分たちで勝手に上げられない、上げる原資がなく補助金を活用するしかないのが現実です。

例えば浅口市が里庄と一緒にあって結婚・妊娠・出産・子育てに関する特区を作って活動してもらうことも一つの手段かと思います。子育ては大切ですが、その前に子どもを産んでもらわないと困ります。子どもが産める環境を作って、それに続いて子育て支援が出来ていくように環境整備をしてほしいです。

また病児保育についても、病院や企業が一生懸命でも制度が固くて職員、看護師の働き方が難しくなり兼務ができない状況もあります。制度としての問題もあるため、そこを見直すためにも特区を作るのが1番ではないかと思います。こういったチャレンジをしてほしいと思います。

また給料を上げないと集まりにくいと思います。民間よりも高いとは決して言えません。ここも大きな問題であると昨日話をさせていただきました。ここが改善されないと誰も来ないのではないかと思います。民間はそこを一番に考えています。そうなりますと民間との取り合いになってきます。民間と行政が取り合いをすれば行政が勝つ時代がこれまでの在り方でした。今はそうではありません。だからこそ、ここを考えなくてははいけません。若い子育て世帯や学生に今後のことを考えてもらったり、そういった方々の委員会や集まりを作るなど前向きに意見を出してそれを反映してもらいたいと思います。

時間がかかるかもしれませんが、特区構想を国や県に話を上げていけば、周囲からも注目され、参加したいと思われるようになると思います。こういったアプローチをどんどん積極的にしてください。

我々医師会では、今、地域包括ケアシステムの構築を頑張っています。高齢者については、大体形ができています。国の方針として、子どもを産み育てる環境整備が一番になるように全世代型の地域包括ケアをやっていくとされています。今後は子どもを産み育てていくためにはどうすればいいのか、苦労をどのように排除できるかがポイントになります。

保育士を確保して、休日保育の実施も検討すればいいと思います。市役所は土・日休みが多いですが、他の業種の方々は平日に限らず土日にも働かれています。ここをもっと広い目でみた方が良くと思います。

パブリックコメントの意見について、これらをすべて反映させることはなかなか難しいかもしれません。どういう風に前向きに答えを出していくのか、考えるのか、一緒になってやっているという形にしてください。内容としては今の内容になるのが現実かと思いますが、もう少し優しく、愛情をもった表現にしてください。

議会においてもこの素案を活用して質問してもらえらるともっと前向きに動いていくと思います。市民の皆さんもこの地域の子どもたちが増えて楽しく生活できることを支援していきたいと思っているはずです。

これまで浅口市は大体200人ほどのお子さんが毎年生まれてきていました。コロナ以降、少し下がっています。金光に新しく住宅ができていますが、それでも少なくなっているのが現状です。どうやったら増えていくのか、この点に関

大岸委員	しても考えた方がいいかと思います。 民生委員児童委員の大岸です。子育てについて、私は放課後児童クラブの運営委員をしており、主任児童委員という立場もあって子ども達と関りを持たせてもらっております。子どもたちが長期休みに入りどのように過ごしているのかと思ったときに、学童クラブに入れている子は大人に見てもらうことができているがそこに入れない子たちは地域でうろうろとしているように感じます。 我々が子育てをしていた時代はおじいちゃんおばあちゃんに子どもを預けて私も勤めていましたが、今はおじいちゃんもおばあちゃんも働いているのでそれはできません。若い方たちはどこに頼ったらいいのかわからないということを最近よく耳にします。 行政が全ての枠を作ることは絶対に手が足りず無理だと思います。今、子どもの居場所づくりとして子ども食堂についてや放課後に学習支援を行っておりますが、そういう居場所をそれぞれの学区に設け、民間の人たちや地域の人たちが行えるようになると子どもたちも安心して身を寄せ、困った際にも頼れる場所になると思います。こういった活動を支援する制度を設けてほしいです。もう少し民間を信用して、その活動を応援する制度を構築してください。
中村会長	貴重なご意見をありがとうございます。放課後児童クラブは入れる人と入れない人がいます。時間的な制約もあります。非常に難しい問題だと思います。 行政だけでは全てをカバーすることはできないと思いますし、するべきではないとも考えます。上手く民間とコラボレーションしながら、あるいは民間だけでなく地域と連携した制度設計等を考えることが非常に重要なことだと思います。浅口市独自の動きやプランができればそれが広がり移住者が増えてくる可能性もあります。特区を作ることも一つの案だと思います。特区にするのであれば、お隣の里庄町と一緒に考えた方が良いでしょう。 子育て支援や出生率も含めてご意見やご提案をいただいたことについて、どの程度反映させることができるのか考えてみてください。
事務局	色々な貴重なご意見ありがとうございました。福嶋委員をはじめ他の委員の皆様からもパブリックコメントの件でご意見いただきました。表現を気を付けた内容にして、書ける部分は具体的に記載して参ります。 また、家賃補助等のご意見も具体的にいただきありがとうございます。パブリックコメントでいただいたご意見もそうですが、総合戦略では色々な方針を示す計画となっております。 この計画の下に保育未来課を中心とした子育て会議を実施しており、現在、浅口市子ども・子育て支援事業計画を作成中であります。こういったところにもいただいたご意見を届けます。 個別具体的なサービスの充実に関するご意見もいただいております。計画に反映できないかどうかを含めて担当課に情報提供をさせていただきます。 皆様、ご承知のとおり全国的にも少子高齢化が非常に進んでおり、当市だけで対応していくことは難しいこともあります。民間の力も借りなければいけないところもあります。

	また国や県の方針にすり合わせをし、みんなで考えていかないといけないとも思っております。市として何もしないということはもちろんありません。市長も子ども子育てには就任当初から力を入れているところでございます。教育費についても非常に力を入れています。予算配分的な部分もございますが、皆様から頂いたご意見を担当課に伝えまして、今後の市政運営に反映させてまいりたいと考えております。
三宅委員	漁業組合の三宅です。私もパブリックコメントについてですが、やはりこの回答ではせっかく声ができているのに、このままの回答だとどのようにしたら声が届くのかなと思われる保護者の方もおられると思います。 今回のコメントは意見であり、市への要望にも思えます。あれもこれも、値段を安く、補助をして等々、やはり限界はあると思います。これはできませんというものについては、なぜできないのか、実施しないのかを具体的に回答する場所を作るべきかと思います。この回答をホームページで公表するのであれば、そこで具体的に述べるべきだと思います。 例えば、倉敷市と浅口市では当然、財政規模が違います。岡山市と浅口市を比べても岡山市は政令指定都市です。提案者や保護者の方々にも理解してもらえるように、分かるように説明していくことで新しい考えも上がってくるのではないかと思います。
中村会長	やはり市の考えについては、根拠が欲しいですね。
事務局	基本的にパブリックコメントについては、個別回答はせず、ホームページでご意見をいただいたこと、その内容、市の考えを掲載することとしておりましたが、皆様からご意見をいただきましたので、担当課に実施できない理由について確認をしたうえで回答内容を変更して掲載させていただきます。 保育士不足が原因である理由や、逆を返せば、保育士の確保ができれば市としても前向きに検討できるとの意味合いだとも思っておりますので、担当課と調整しながら誠実な回答ができるよう前向きに検討させていただきます。
福嶋委員	どうしてだめなのか理由を述べることは重要です。ですが、求めている回答はどうしたらできるのかということです。そのために市としてはどのようにしているのか、考えているのか、ここまで記載してください。これが思いやりのある回答です。ここの部分の回答がないため冷たく感じるのだと思います。 浅口市が保育士・保健師を募集しても来てもらえないのはそれなりの理由があります。そこを徹底的に解明してください。ここにも繋がってくることです。 学童保育についても働く人、見てくれる人の環境整備が重要だと思います。いつまで経っても同じ回答だと理解しがたいです。積極的な組織やトップを作り、前向きに検討していくための会議をもって積極的に取り組んでいてもらいたいと思います。
中村会長	賃金を上げるのはなかなか難しいです。だからこそ必ず必要なものとして家賃補助をすればいいのではないかと思います。そうすると実質、賃金が上がります。

	ふるさと納税を活用して実施できればいいのではないかと思います。
事務局	本日の会議でもこれだけのご意見をいただいております。子育て、出生率のアップについて非常に重要な問題であると大変認識しております。 総合戦略の会議でこれほどのご意見をいただくということであれば、おそらく保育未来課が実施している子育て会議等でも細かいご意見もいただいているのではないかと思います。保育未来課や健康こども福祉課にも展開して、担当課としての見解や具体的な取り組みを聞き取ると同時に、それぞれが実施している各会議でも展開してもらうように伝えます。
三宅委員	金光地区は教室が足りないくらい子どもが増え続けているのですか。
大岸委員	増えています。3クラスになる程ではありません。
三宅委員	私は寄島出身です。寄島地区は駅からも距離があります。また、この春に小中が一貫になります。それに比べて鴨方・金光は山陽本線も通っています。住みやすさや環境の良さを考えると、この近隣で一番人口が増える要素があると思います。
事務局	この総合戦略は出生率を上げることや移住者を増やす、子どもを増やして行くための戦略です。 近年、近隣の市町村が消滅可能都市になっておりますが、浅口市は消滅可能都市としては挙げられていません。 委員の皆様からいただいた住みやすさはデータでみましても、倉敷市や笠岡市、近隣都市から転入してくださっている方々が多くおられます。 ですが、近隣での取り合いではなく首都圏から移住してもらえようPRや方策を検討していかなければいけないと考えております。 国が目指す地方創生が首都圏からの人口移動でもあると思っております。今後も魅力ある発信をしてまいります。
高戸委員	教育委員の高戸です。先ほどの皆様のご意見を聞かせていただいて、いつも教育委員会に出てくる話題と全く同様の話題になります。いつも会議でも言われているのですが、本当に保育士が不足しています。先ほどのご意見の中でも、今すぐにできること、できないことはあるかと思いますが、募集をかけることは今すぐにでもできることだと思います。募集をしても全く来ていません。この状況が3年も4年も続いています。 保育士が不足しているという状況を知らないという人が非常に多いです。ということは、市のPRが全くできていないということです。こういった会議に出ている人や一部の人は知っていますが、そうでない方々は知らないのが現状です。もっと広くいろんな人に今の現状を知ってもらい協力してもらうために、上手にPRしていただきたいと思います。
中村会長	先ほども申し上げましたが、県内の大学や専門学校には保育士を育成している

	教育機関がたくさんあります。例えば、市と大学、市と専門学校で人材供給に関する包括協定を締結するのもいいのではないかと思います。包括協定となると産業の関係や新規開発の関係が多いですが、人材育成に関する包括協定は比較的簡単にできるものではないかと思います。 ただ、新卒の保育士さんたちは未経験です。包括協定を結んでもベテランの方々はおられません。ベテランの方々については、退職された方、子育てが終わった保育士資格を持たれている方をネットワークを通じて募集をかけていけばいいのではないかと思います。人口が20万人、30万人いる大きな町ではありませんので、どこにどんな方が住まわれているのかご近所でも把握されていると思います。市役所として人材発掘をしていけば確保できるのではないかと思います。 また、鴨方駅付近に子どもを預けられる施設があると非常に効果的だと思います。倉敷市や岡山市、福山市に通勤される共働きの世帯からすると、そこでお子さんを預けられることは非常に役立つと思います。色々な時間の節約にもなります。 千葉県の流山市では7、8年前から子育てをするなら流山市と言われるほど取り上げられていました。どんどん転入者や、マンションが増え、人口増加に繋がりました。その後は、増えすぎた余り、かえって学校の施設等が足らなくなり、教育サービスが受けられないような問題も見受けられました。 導線をしっかりと確認して、人が集まるところに施設を設けるとするのは1つの手かだと思います。空き家や空き店舗を活用して子ども食堂の一部を開催したりコミュニティ施設として人々が集まれる環境にしたりすることもいいと思います。そうすることで若い世代の方を含めたいろんな人たちが意見を交わすことができ、新しいアイデアも出てくるのではないかと思います。
杉野委員	商工会女性部の杉野です。最近は結婚されない若い方々が増えてきています。全く家から出ない人もたくさんいます。そういった方々、若者が集えるような会や場所を作っていけばいいのではないかと思います。
中村会長	本人の都合や家庭関係もあるかと思います。出会いの場を提供することはいろんな自治体でも行っています。岡山県としても取り組みをされています。
杉野委員	保育士不足については、職場環境や職場内での問題もあるのではないのでしょうか。そういった点も改めて募集をされてみてはどうかと思います。
事務局	保育士確保の件につきまして、現在、浅口市においても保育士の就職を応援するために応援助成金を用意しております。 浅口市内でも公立の保育園、幼稚園だけではなく、私立園でも不足しております。報酬費として、一時金とはなりますがお金を支給して募集を行っており、保育士に特化した就職フェアも開催してPRをさせていただいております。ですが、なかなか成果が出ない状況であります。 先ほど杉野委員からもご指摘をいただきましたように、離職される方もおられます。離職される理由としては様々ではございますが、家庭の事情だけではなく、職場環境等もあろうかと思います。個別事情があるとはいえ、人材不足であるこ

	とに変わりはありません。担当課の方でも分析をしていると思います。分析を通じまして、より効果的な施策を打ってまいります。 若者が浅口市を出ていってしまう現状について、進学で出て行かれたお子さんに戻って来てもらえないというのが実情であります。この部分を強化していくために、現在、企業立地に力を入れ、働く場所の確保をし魅力の町を目指して頑張っております。 市内の中学2年生を対象にアンケートをとった際に、浅口市に足りないものは楽しめる施設がない、大型商業施設がないとのご意見をいただいております。大型商業施設やアミューズメント施設を作るとなると民間の力も必要となり、なかなか困難ではありますが、これらをカバーできるような魅力作りに励んでいきたいと思います。若者に選んでもらえる町を目指して一生懸命考えていきたいと思っています。
栗田委員	親子クラブつくし会の栗田です。子育て支援について、保育士が足りないとのことですが、保育園等で勤務される方は資格を持っていないといけないうのかもしれませんが、7月から福祉センター低層棟に移転することになるのびっ子では先生がいつも2人おられます。この先生方もおそらく保育士資格を持たれているのだと思います。 何故、お母さんたちがのびっ子に通うのかというと、少しでも目が離せるため、小さいときは小さいものを口に入れたり、転んでも怪我をする、そのような状況を24時間見続ける責任の重さにしんどい思いがあるからです。ちょっとでも目が離せて、誰か大人が子どもを見てくれて、自分に集中できる時間を確保するためにのびっ子に行っています。 ですが、先生が2人しかいないので赤ちゃんが来たら先生は赤ちゃんを抱っこしている状態で、お母さんが自分たちで遊ばせざるを得ないのが現状です。親子で交流することが目的の施設ではありますが、お母さんたちとしては協力者がほしいのです。お母さんたちは必ずしも保育士さんや専門の方である必要はないと思っています。資格がなくても子どもたちと触れ合える、お母さんたちを助けてくれる、イベントの時に協力してくれて一緒に見守ってくれる人材を求めています。保育士さんでなくてもいいので、地域の人に入っていただく機会があってもいいのかなと思います。 16ページの地域子育て拠点事業実施箇所が現状値も目標値も2箇所のままで変わらないという状況なので、ここを3箇所に増やすなど数値を変えないと現状維持だけでは目標とは言えないのと思っています。ここを実施箇所にするのではなく、職員の人数にするなど目に見える目標に変えていただきたいと思います。お願いします。
事務局	先ほどご指摘をいただいた通り、2箇所のままであるという点につきまして、目標としてはより高くするべきだというご意見は確かにあろうかと思います。 内容の充実につきましても、再度、担当課に確認をし数値の変更ができないか、あるいは評価指標自体を変更することができないか確認させていただきます。
中村会長	今回の審議会が素案の最終確認となりますが、重要なお意見が数多く出ました

	ので、可能な限り計画に取り入れて、改めて練り直していただきたいと思います。 またパブリックコメントに対する市の考えとしましては、対応できないのであればその理由を、対応するのであればいつどのように対応するのか、具体的に記載をお願いします。 その案を市と会長、副会長において確認し答申につなげていくようにさせていただきます。 委員の皆様、よろしいでしょうか。
委員	異議なし
中村会長	それでは議事（１）につきましては、以上とさせていただきます。 続いて、（２）その他ですが、事務局から何かありますか。
事務局	事務局より、総合戦略策定後の審議会の役割についてご説明いたします。 庁内においても総合戦略については、PDCA サイクルのもと、毎年度、進捗管理を行います。審議会においても、毎年度、外部組織として評価・検証をしていただくこととしております。 つきましては、来年度の審議会の開催の日程が決定いたしましたらご案内させていただきますので、よろしくお願いいたします。 事務局からは、以上です。
中村会長	その他、全般にわたりまして、何かご質問等がございましたらお願いいたします。 特にないようでございますので、本日の議事は以上になります。進行を事務局にお返しします。
3 閉会	
事務局	中村会長ありがとうございました。 それでは、閉会にあたりまして、伊澤副会長よりご挨拶をいただきます。
伊澤副会長	皆様におかれましては、本日も長時間にわたり慎重なご審議をいただきありがとうございました。 皆様の熱心なご審議により、審議会として市へ答申する総合戦略を固めることができたのではないかと思います。 大変お世話になりました。改めましてお礼申し上げます。 市におかれては、策定にあたって皆様にいただいた意見を十分尊重し、総合戦略に基づいた人口減少対策を着実に実施していただきたいと切に願う次第であります。 また、本審議会では市が策定した総合戦略の進捗を外部から評価・検証する役割も担っております。 委員の皆様方へ今後引き続きのご協力をお願いいたしまして、閉会のあいさつとします。ありがとうございました。
事務局	ありがとうございました。

	これをもちまして、令和6年度 第3回浅口市まち・ひと・しごと創生総合戦略審議会を終わらせていただきます。 本日は大変ありがとうございました。
--	--